

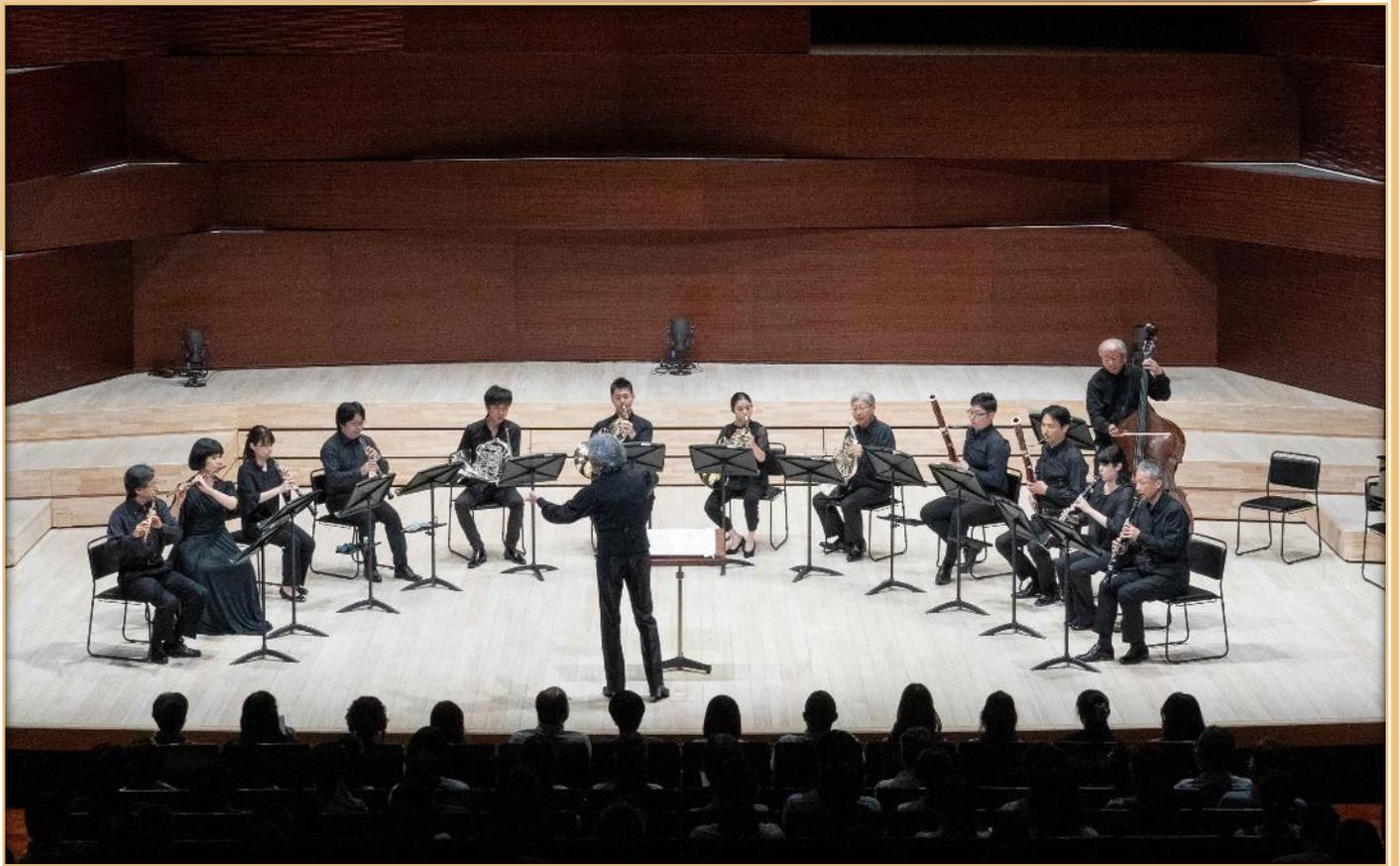
東京音楽大学創立 111 周年記念演奏会シリーズ

管打楽器部会主催

# 木管ソロ・室内楽演奏会

2019年6月30日（日）15：00／追加公演 18：30

中目黒・代官山キャンパス TCM ホール



R.シュトラウス／  
13 楽器のためのセレナード 作品 7

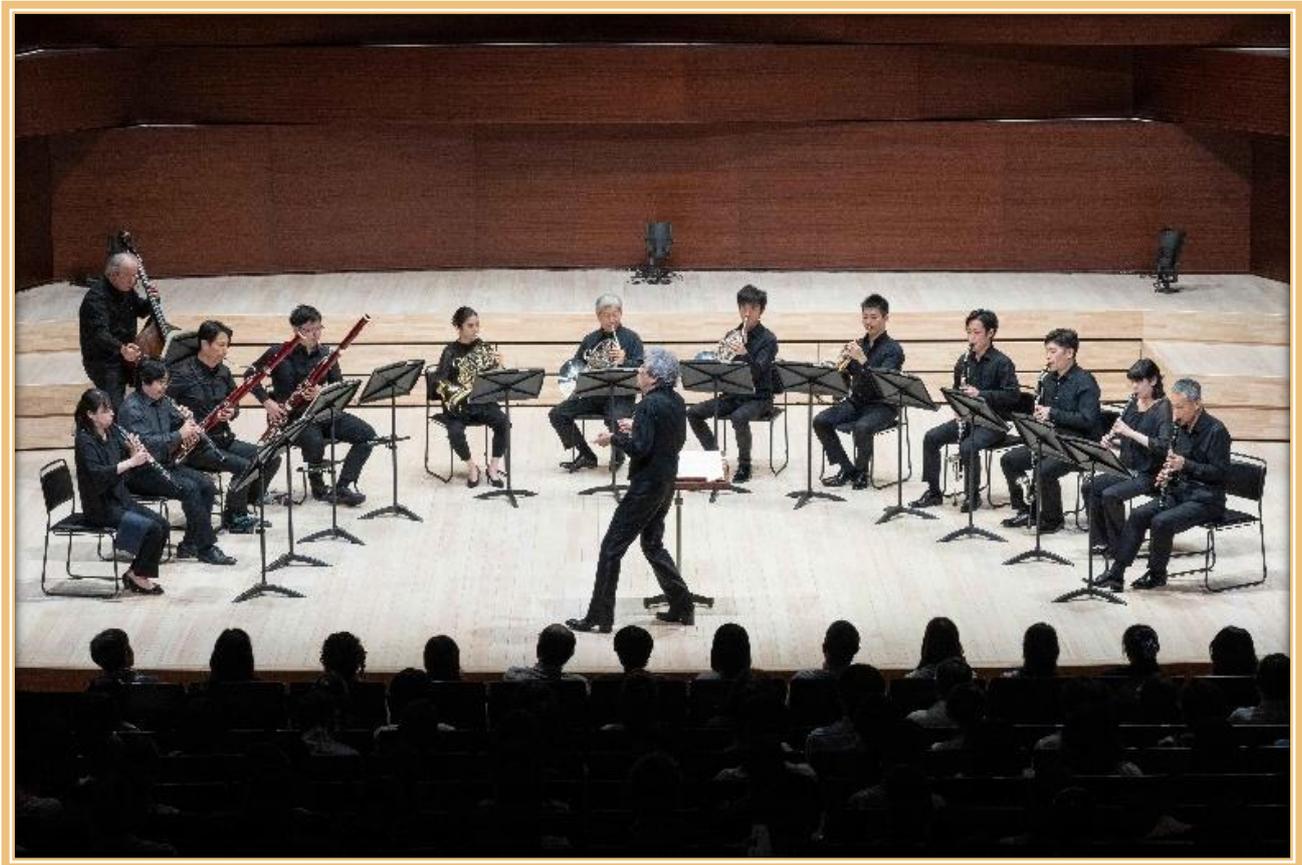
6月から9月にかけて7回開催される「創立111周年記念演奏会シリーズ」も、ちょうど折り返しの4回目を迎えた。出演者はいつもの通り、これでもかというほどの超豪華メンバーだ。しかも、今回はチケットが早い時期に完売（入場無料ですが）。急ぎょ追加公演も決まった。

従って会場は満席。曲は R.シュトラウス「13 管楽器のためのセレナード」、ドビュッシー「フルートとピアノのためのソナタ」、そしてモーツァルト「セレナード第10番 グラン・パルティータ」。ドビュッシーの曲は、晩年の「チェロソナタ」を演奏者の工藤重典教授が編曲したもの。

追加公演の部は、最初に指揮の宮本文昭教授のユーモアあふれるトークから始まった。演奏には照明による演出が加えられたり、工藤教授のアンコールがあったり、いくつもの「工夫」が施された。

通常公演・追加公演ともに、奏者の奏でる「音楽の喜び」「演奏する喜び」が舞台から客席へ、会場全体に満

ちあふれ、実に楽しい演奏会だった。TCM ホールの包み込まれるような豊かで暖かな響き、客席から間近に見ることができるプレイヤーの活き活きかつ嬉々とした表情・・・全感覚をフルに刺激する、楽しい至福の一日だった。演奏会最後の全出演者が出そろった18名の錚々たるカーテンコールも圧巻だ。いつまでも鳴り止まぬ拍手に、「ブラヴォー」の声も加わった。しかし全員がすばらしかったので、心の中では「ブラヴィー」（ブラヴォーの複数形）と叫び続けた。



W.A.モーツァルト／  
セレナード第10番「グラン・パルティータ」



C.ドビュッシー（工藤重典編曲）／  
フルートとピアノのためのソナタ



照明の演出



カーテンコール



指揮：宮本文昭教授



終演後の様子

公演後しばらくして、宮本先生と話をする機会があった。「演奏会なんだから、お客様に楽しんでもらわないとね」「特にモーツァルトの曲は、演奏する我われが楽しくないと。そうするのが、指揮者の務めなんだ」・・・と、いろいろと含蓄のある言葉を聞くことができた。

リハーサルを含め、演奏会当日の詳しい様子は宮本先生の Twitter でもご覧ください。

[https://twitter.com/fumi\\_miyamoto](https://twitter.com/fumi_miyamoto)

(広報課)